

②4 リンゴ品種「ふじ」生誕70周年記念碑



平成22年(2010)11月13日、弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター藤崎農場内に「ふじのふるさと記念広場」が開園されました。

同広場は、藤崎農場にあった旧農林省園芸試験場東北支場の研究施設として唯一現存する歴史的建物「ガラス温室」の修復をはじめ、リンゴ品種「ふじ」の生誕70周年を記念した記念碑の建立、地元藤崎町から譲り受けた「ふじ」の原木株分け樹の移植等を行い、藤崎町と共にリンゴ「ふじ」のPRを行う起点となるよう環境整備されたもので

す。

リンゴ品種「ふじ」生誕70周年記念碑は、世界一の栽培面積を誇る「ふじ」育成の偉業を讃え、藤崎町でのリンゴ研究とリンゴ産業の発展を祈って建立されました。錦石で造られた大きなリンゴのオブジェは、広場のシンボリック的存在となっていて、藤崎町の観光スポットにもなっています。

〔引用文献〕

1. 弘前大学総務部総務課(編)(2010). 弘前大学学报, 80, 4.
2. 弘前大学農学生命科学部同窓会(編)(2011). 弘前大学農学生命科学部同窓会会報, 29, 9-10.

(碑文)

ふじ 生誕の地

リンゴ品種「ふじ」は、一九四〇年、この場所において、農林省園芸試験場東北支場の育種試験により、「国光」と「デリシャス」の交配種子から誕生した。

生誕七〇周年をむかえ、世界一の栽培面積を誇る「ふじ」育成の偉業を讃えこの地でのリンゴ研究とリンゴ産業の発展を祈って記念碑を建立する。

二〇一〇年十一月吉日

国立大学法人 弘前大学

旧農林省園芸試験場東北支場「ガラス温室」

しばしば冷害に悩まされた東北の寒冷地園芸農家の永年の要望と、昭和九年に東北地方で起こった大冷害を契機に、一九三八年(昭和十三年)、「農林省園芸試験場東北支場」がこの場所に創設されました。

現在の弘前大学農学生命科学部生物共生教育研究センター藤崎農場や青森県立弘前実業高校藤崎校舎、藤崎町営住宅みどり団地がある約十九ヘクタールの広大な広場です。

園芸試験場の誘致にあたっては、青森県や山形県が名乗りをあげ、青森県内でもいくつかの市や町が活発な誘致合戦を展開していたのですが、農林省の実地調査の結論は、ここ藤崎町に設置したいというもので、関係した自治体や当の藤崎町の関係者を驚かせたといわれています。

開場と同時に、果樹や野菜の品種改良、栽培改善、栄養生理、病虫害防除に関する様々な試験研究が行われました。寒冷地果樹の育種に関する研究では、現在世界一の生産量を誇るりんご「ふじ」が育成されています。

園芸試験場東北支場は、一九五〇(昭和二十五年)に「農林省東北農業試験場園芸部」に組織替えされ、同時に、盛岡市に移転統合される方針が出されました。そして、一九六一年(昭和三十六年)に移転して「演芸試験場盛岡支場」となり、二十三年間の歴史を閉じました。

このガラス温室は、一九三八年(昭和十三年)に完成し、園芸試験場の研究施設で唯一取り壊されずに残っている建物です。冬の極寒時でもボイラーにより加温することができるため、一年を通して試験研究のできる、当時としては画期的な施設でした。野菜苗の育成、りんご交雑実生の育成、病原菌の接種試験など、様々な事に使われていました。二〇一〇年(平成二十二年)、藤崎町および住民からの要望もあり、この温室を当時の面影を残しながら末永く保存するため、弘前大学が修復工事を実施しました。

二〇一〇年十一月 弘前大学

「ふじ」原木の株分け樹

現在、世界一の生産量を誇るりんご「ふじ」は、かつてこの地にあった農林省園芸試験場東北支場（現 農研機構果樹研究所）が育成し、一九六二年（昭和三十七年）に、藤崎町の町名などにちなんで命名・品種登録されたりんごです。

「ふじ」は、当時の主力品種に比べて抜群の食味を示し、貯蔵性も良いことから、品種登録された直後から高値で取引され、わが国で順調に生産量を増やしました。一九七七年（昭和五十二）には約二割、一九八七年（昭和六十二年）には約四割、一九九九年（平成十一年）には五割のシェアを占め、現在もそのシェアを維持しています。また、海外でも広く栽培されており、中国で約六割、米国で約一割、韓国では約七割のシェアを誇っています。

「ふじ」の子供達には、優秀な品種がたくさん生まれています。「千秋」「こうこう」は「ふじ」が父親、「シナノスイート」「北斗」「こうたろう」「ハックナイン」は「ふじ」が母親です。

「ふじ」は、色づきがあまりよくないのが欠点でしたが、着色のよい枝変わりが各地で次々に見いだされました。現在栽培されている「ふじ」のほとんどは、枝変わりです。また、マルバカイドウなどに接ぎ木して育てられているので、根は「ふじ」そのものではありません。

藤崎町では、「ふじ」原木の「ひこばえ」を譲り受け、原木の株分け樹として役場前で大切に管理・展示してきました。現在は県立弘前実業高校藤崎校舎の畑に植えられています。ここ藤崎農場にある株分け樹は、藤崎校舎にある樹の「ひこばえ」から育てたもので、二〇一〇年（平成二十二年）に移植されました。根も含めて、育成当時の「ふじ」の遺伝的性質をそのまま受け継いでいます。

二〇一〇年十一月 弘前大学